

Teacher(s)	松田、菊地、田中	Subject group and discipline	地理総合	Program	MYP
Unit title	Unit3「持続可能な地域づくりと私たちの生活」	MOIS Year	4	Unit duration (terms)	1 0 Term

INQUIRY: Establishing the purpose of the inquiry

Learner Profile ・ 学習者像		
思いやりのある人 自分や他者、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献する人を目指す		
Key concept ・ 重要概念	Related concept(s) ・ 関連概念	Global context ・ グローバルな文脈
システム（体系）	管理と関与・規模・持続可能性	公平性と発展
Statement of inquiry ・ 探究テーマ		
自然に対して適切に関わり管理することで、人間の営みを支え、持続可能な社会の実現を可能にする。		
ROK ・ TOK Connections	Knowledge Questions ・ 知識に関する問い	
人間の営みを守ることは、自然環境や産業的な発展よりも優先されることか	人は安心や安全を得るために知識を得ていると言えるか	
Inquiry questions ・ 探究の問い（代表的なものを記載）		
<u>Factual ・ 事実的問い:</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本で 2000 年代に発生した災害にはどのようなものがあるか。 ・ 地震の発生するメカニズムはどのようなものか。 ・ それぞれの災害についてどのような対策がされているか。 		
<u>Conceptual ・ 概念的問い:</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような要因が災害の被害を拡大させるか。 ・ 災害に強い都市とはどのようなものか。 ・ 地域の文化や産業は災害とどのように関係しているか。 		

Debatable 議論的問い:		
<p>・今後、生活文化が発展していく中で重視されていくのは自然的条件か、人為的条件か。</p> <p>・地域の課題には自然的要因と社会的要因のどちらがより強く影響を与えているか。</p>		
Objectives ・ 目標	Summative assessment ・ 総括評価課題	
<p>①</p> <p>【A 知識と理解】</p> <p>A-i：文脈にあった広範囲の用語を使う。</p> <p>A-ii：高度な記述や説明、または事例を通して、Unit 2・3の内容と概念について知識と理解を示す。</p> <p>②</p> <p>【C コミュニケーション】</p> <p>C-i：受け手や目的にとって適切なスタイル(文体)を効果的に使用して、情報や考えを伝達する。</p> <p>C-ii：特定の形式にふさわしい方法で、情報や考えを構成する。</p> <p>【D 批判的思考】</p> <p>D-i：概念、問題点、モデル、視覚表現、理論について議論する。</p> <p>D-ii：情報を統合して、有効な主張を行う。</p>	<p>GRASPS Statement</p> <p>あなたは自治会の防災担当として、その地域で起こりうるあらゆる災害に対して、発生する原因と影響、対応を把握しています。その中で災害が起きたとき、どのように対応するか、ケーススタディを住人に行うよう頼まれました。様々な地理的事象と関連付けながら、その地域の被災可能性と対応について説明しましょう。</p> <p>① ②</p> <p>Goal ・ 目的</p> <p>地域住民にその地域に起こりうる災害の原因と可能性、その対応と備えについて説明する。</p> <p>Role ・ 役割</p> <p>自治会の防災担当</p> <p>Audience ・ 相手</p> <p>転居してきたばかりの地域住民や、高齢者</p> <p>Situation ・ 状況</p> <p>目標に対する自らの達成度を把握するために、総括的評価課題に取り組む。</p> <p>Product/performance ・ 成果物</p> <p>単元テスト：①マークシートテスト②論述テスト</p> <p>Standard ・ スタンダード</p> <p>【知識・技能】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>Connection between the summative assessment and the statement of inquiry 総括的評価と探究テーマとのつながり</p> <p>①</p> <p>総括的評価課題では【A 知識と理解】を知識・技能の観点でテストを出題し、探究テーマに対する理解や自らの考えを深める。</p> <p>②</p> <p>この総括的評価課題に取り組むことで、【D 批判的思考】を思考・判断・表現の観点でテストを出題し、生活の基盤をつくっているのは自然環境を基にした人間活動によるものであること、それが適切な管理であれば人間の活動がより安定的なものになることを既修事項と資料から読み取ったことを組み合わせで論述する。また、人々は自然だけとつながりを持っているのではなく、人間同士でもつながりをもって生活していることを理解する。</p>

Approaches to learning (ATL)	ATL と「主体的に学習に取り組む態度」の評価とのつながり
情動スキル：生徒は、自分の気持ちをどのように管理することができるか	自分の住む地域のことを想像し、よりよい状態にするために何が必要か考えることができるか。
批判的思考スキル：生徒はどのようにして批判的に考えることができるか	現状の都市づくりや防災対策について、過不足はないか、批判的に分析することによって、自分に関係のある地域に対して主体的に関わろうとしているか。
転移スキル：生徒はどのようにしてスキルや知識を学習分野や教科の枠をこえて転移することができるか	地理的分野での既修事項や、他教科で学んだ防災に関する知識やスキルを地域の防災に役立てようとするすることができるか。

ACTION: Teaching and learning through inquiry

Content Term または、小単元	Learning process		
	Learning experiences and teaching strategies・学習活動と指導のアプローチ	Formative assessment・形成的評価	Differentiation・個別最適化
Term1 オリエンテーション 形成：古地図から自分の住む地域の災害リスクを読み取る	MQ：さいたま市はこれまで災害に対してどんな対策を取ってきたのか ① 古地図の読み取り ② 対策の歴史 ③ 自分に必要な力は？	<ul style="list-style-type: none"> 古地形図からそこにどんな災害リスクがあるか読み取り、評価することで、自分の災害に対する知識とその理解のレディネスを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【主体的に学習に取り組む態度】生徒が新旧地形図を比較したり、問題に答えたりする中で、足りない知識やスキルを明らかにし、自分に合った学習方法や修得すべき分野に対してどうアプローチしていくのかを決めた、知識習得の計画を立てる。
Term2 地形図の読み取りの技法	MQ：地形図からどこまでわかるのか。 ① 図法 ② 一般図と主題図 ③ 地形図読み取りの技能	<ul style="list-style-type: none"> 地形図を正しく読みとる技能を高めるため、複数の地域の地形図の読み取り結果を班で共有し、どのように読み取ったか、そこからどう推察したのか説明し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】目標未達生徒：地形図を読み取る際のポイントを一緒に確認し、時間の中で二つ以上の場所の地形図を読み取る練習ができるようにする。

			<ul style="list-style-type: none"> 目標到達生徒：複数地形図を準備をして、小地形の特徴などが読み取れるかなど、次回の内容に踏み込む。
Term3 日本の小地形	MQ ：景観や地形図から小地形を見つけられるか ① 小地形の種類を確認する ② 景観と地形図から読み取る	<ul style="list-style-type: none"> 地形図の読み取りを通して、日本にある小地形についてどこにどのように分布しているのか、判断できるようにする。その際、成り立ちから説明ができるように小地形の知識と結び付けながら読み取るよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】目標未達生徒：生徒になじみのある、もしくはわかりやすい場所の景観図と地形図を並べて提示することによってそれぞれの視点から見た地形や景観の特徴を捉えやすくする。
Term4 地形からの災害と対策	MQ ：地震や火山活動、津波はどの程度被害を抑えられるのか ① 地震の発生するメカニズムはどのようなものか、資料や動画から理解する ② 現状の対策はどう講じられているのかさいたま市と東北を中心に調査し共有する。		<ul style="list-style-type: none"> スタディサプリでこの Unit に関する問題を解く。正答率が8割以下の生徒はフォローアップの問題が自動配信される
Term5 気候からの災害と対策	MQ ：大雨や洪水、竜巻などの被害はどの程度抑えられるのか ① どんなメカニズムで災害が起きるか資料や動画から理解する ② 現状の対策はどう講じられているのかさいたま市と東北の資料を中心に調査し、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 過去の災害の事例をもとに、災害がなくなった地域や、災害が近年頻発している地域についてあげる 	<ul style="list-style-type: none"> スタディサプリでこの Unit に関する問題を解く。正答率が8割以下の生徒はフォローアップの問題が自動配信される
Term6 それぞれの対策の現状と改善策	MQ ：現在の対策は可能な限り万全なのか ① 想定される被害をより抑えるために何ができるのか班で考察する。	<ul style="list-style-type: none"> アンコンシャスバイアスが自分の住む地域の防災対策にかかっている可能性を鑑み、改めてハザードマップで自分の地域を評価する。 	

	② どのような要因が災害の被害を拡大させるか、事例を基に分析する		
Term7 形成的評価・仮想の地域を 防災する	MQ：旧地図からリスクを読み取ることができるか ① DIG を班で行うことで、災害に強い都市とはどのようなものかを体験する。	<ul style="list-style-type: none"> DIG を班で行い、どのような災害リスクがあり、どんな対策をすればよいか考える中で、気づいていない視点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】目標未達生徒：地形図を読み取る際のポイントを一緒に確認し、土砂崩れや浸水などが具体的にどのような場所で起きるのか問いかけながら、活動を促す。DIG では東北修学旅行で防災をテーマに選んだ生徒を班に1名配置して、他地域で防災を学んだ生徒の視点を共有する。 【思考・判断・表現】目標到達生徒：実際のリスクにどう対策をすればよいか、他のリスクがないか問い直すことで、新たな視点をもつことが出来るようにする
Term8 総括的評価課題① 準備	MQ：災害に際して、被害を防いだり減らしたりするときに、自分の足りない部分を補うには何を学べばよいのか振り返り、修得するために活動する。		<ul style="list-style-type: none"> 【主体的に学習に取り組む態度】生徒が新旧地形図を比較したり、問題に答えたりする中で、足りない知識やスキルを明らかにし、自分に合った学習方法や修得すべき分野について、知識習得の計画に沿って学習する。
Term9 総括的評価課題①② 単元テスト：	MQ:あなたは自治会の防災担当として、その地域で起こりうるあらゆる災害に対して、発生する原因と影響、対応を把握しています。その中で災害が起きたとき、どのように対応するか、ケーススタディを住人に行うよう頼まれました。様々な地理的事		<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断・表現】 【知識・技能】

	象と関連付けながら、その地域の被災可能性と対応について説明する。		
Term10 地理総合のまとめ	<p>MQ:日本は地理的観点からみて、持続可能な社会を形成しているのか。</p> <p>① 「今後、生活文化が発展していく中で重視されていくのは自然的条件か、人為的条件か」というテーマについて班で議論をする。</p> <p>② 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りによって、どの程度自分は必要な知識や技能があり、どんな視点から考えたりどんな表現が苦手なのか、今年度どんなことができるようになったりしたのかを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】目標未達生徒：テストのフィードバックコメントによって学習の仕方や、ものとの見え方などをアドバイスする。 【主体的に学習に取り組む態度】自らよりよい地域づくりを推進していこうとする態度がみられる。
Resources			
<p>高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編</p> <p>高等学校新地理総合 帝国書院</p> <p>新詳高等地図 帝国書院</p> <p>新詳地理資料 COMPLETE2025 帝国書院</p> <p>写真で見る 大宮の昔と今 大宮市</p> <p>教育現場の防災読本 「防災読本」出版委員会、中井 仁</p> <p>宮城から伝えたいこと Baton つながれ、どこまでも Vol11 宮城県震災復興本部</p> <p>災害図上訓練 DIG テキスト 埼玉県 https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/26187/0407saigaizujyoukunrendigtext.pdf</p> <p>今昔マップ on the web:時系列地形図閲覧サイト 埼玉大学教育学部 谷謙二（2000～2022年）https://ktgis.net/kjmapw/</p> <p>地理院地図 / GSI Maps 国土地理院 https://maps.gsi.go.jp/#5/36.102376/140.097656/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1</p> <p>活断層図（都市圏活断層図）について 国土地理院 https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/active_fault.html</p>			

REFLECTION: Considering the planning, process and impact of the inquiry

Prior to teaching the unit (指導前)	During teaching (指導中)	After teaching the unit (指導後)
<p>それまで2 Unit で行っていた地理総合を、防災と地域という学習指導要領地理総合の大項目 C を取り出して Unit にした。このことによって防災の意識を高めるだけでなく、実際にどのような知識や技能、判断力が必要になるのかを個人内で明らかにして、個別最適な資質能力の向上が図られることを期待する。</p>		